

Event Schedule

10 October

10月9日(土)	エントリーシート攻略テスト[就]
10月12日(火)~16日(土)	平成23年3月卒業及び留年に関する手続期間(4年次生対象)[教]
10月13日(水)	未内定者のためのフォローアップセミナー(全学部合同)[就]
10月14日(木)	業界研究ガイダンス[就]
10月16日(土)	元人事担当者による特別講演[就]
10月16日(土)	第33回法律討論会(於:10号館1011講堂)[研]
10月18日(月)	日経経済常識テスト(日経TEST経済常識版)&「日経新聞」の読み方ガイダンス[就]
10月21日(木)~11月17日(水)	ゼミナール説明会・公開ゼミナール(2年次生対象)[教]
10月23日(土)	定期無料法律相談会[研]
10月25日(月)~26日(火)	後期開講科目履修登録中止期間(平成16年度以前入学者を除く)[教]
10月29日(金)	再修者(大学院生・休学中の再修者は除く)後期分学費納入期限[会]
10月29日(金)	第31回法桜祭準備日(休講)[学]
10月30日(土)~11月1日(月)	第31回法桜祭(休講)[学]
10月30日(土)~31日(日)	オープンキャンパス(法桜祭と同時開催)[入]
10月上旬~10月下旬	各種公務員業務説明会[就]
10月上旬~11月下旬	内定者による活動報告&相談会[就]
10月下旬~12月上旬	企業研究セミナー[就]

11 November

11月2日(火)	第31回法桜祭後片付け(休講)[学]
11月4日(木)	SPI2 WEBテストガイダンス[就]
11月6日(土)	筆記試験の最新動向勉強会[就]
11月8日(月)	自己表現カススキルアップガイダンス[就]
11月11日(木)	エントリーシート攻略テストフォローガイダンス[就]
11月18日(木)	第3回総合就職ガイダンス[就]
11月18日(木)~19日(金)	ゼミナール入室申込期間(2年次生対象)[教]
11月20日(土)	校友会・法学部共催「グリー株式会社 代表取締役 田中良和氏 講演会」[席]
11月21日(日)	巡回無料法律相談会(於:長野市)[研]
11月25日(木)	ゼミナール入室試験(筆記)(2年次生対象)[教]
11月25日(木)~12月1日(水)	ゼミナール入室試験(口述)(2年次生対象)[教]
11月27日(土)	就職特別講演(校友会共催)[就]
11月27日(土)	OB・OG就職相談会(校友会共催)[就]

12 December

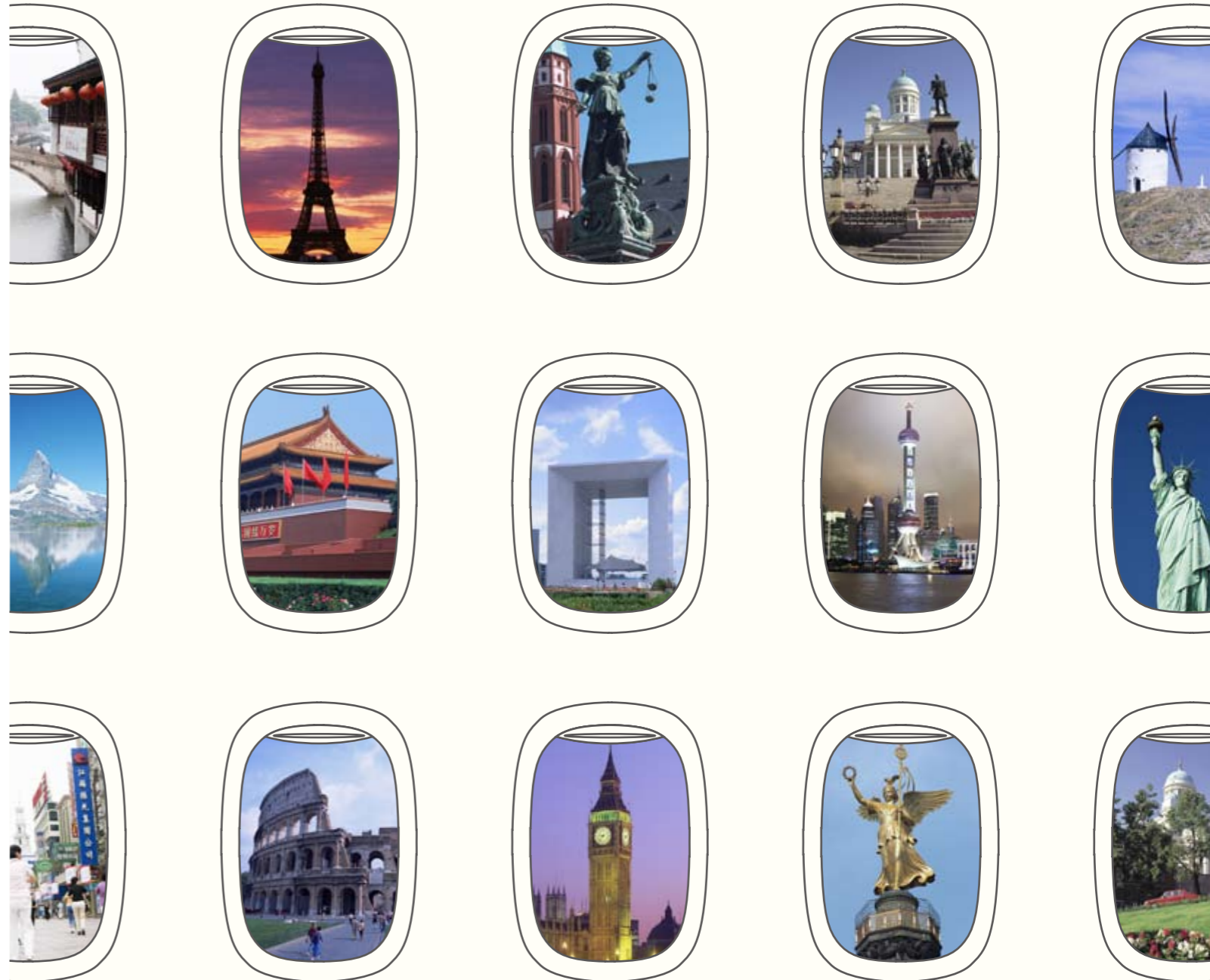
12月4日(土)	公開模擬面接[就]
12月4日(土)	定期無料法律相談会[研]
12月7日(火)	後学期授業終了(4年次生)[教]
12月8日(水)~20日(月)	卒業試験(4年次生対象)[教]
12月20日(月)	年内授業終了(1~3年次生)[教]
12月21日(火)~27日(月)	補講期間[教]
12月上旬~下旬	日本学生支援機構奨学金 平成23年3月満期者返還誓約書手続期間[学]
12月中旬	未内定者のためのフォローアップセミナー(全学部合同)[就]
12月下旬	グループディスカッション講座[就]
12月下旬	業界別個人模擬面接[就]
12月下旬~1月中旬	日本学生支援機構奨学金 平成23年度継続手続き書類配布期間[学]

各項目についての不明点等は、各担当部署にお問い合わせください。また、略字は右記の通り。[席] 庶務課 [教] 教務課 [入] 入学センター [会] 会計課 [学] 学生課 [研] 研究事務課 [就] 就職指導課 ※日時や詳細が決まり次第、掲示板およびホームページにてお知らせします。

お知らせ
11月20日(土)16時より法学部校友会・法学部共催にてテレビCM等で有名なグリー株式会社社長 田中良和氏を招き、講演会を開催します。参加は申込制となっております(定員600名)ので、お早めにお申込みください。お申込みは学生ホール設置の申込書またはホームページより必要事項を確認してください。

日本大学法学部

Journal Vol.1



特集: 海外へ行こう!

Pick up スポーツと地域の幸せな関係

www.law.nihon-u.ac.jp/ 詳細情報は、随時掲示板およびホームページを見て確認してください。



日本大学法学部

Journal

vol.01 2010年10月22日発行 日本大学法学部広報 通巻109号 発行:日本大学法学部企画・広報委員会

02

ストックホルム大学

ラッペンランタ大学

04

ケンブリッジ大学

ベルリン自由大学

ヨハネス・グーテンベルク大学

アヴィニオン大学

03

北京大学
山東大学
鄭州大学
延世大学校
新羅大学校
高麗大学校
慶熙大学校

01

オレゴン大学

ウェスタンミシガン大学

ソノマ州立大学

アラバマ大学

トロント大学

エリザベスタウン・カレッジ

海外へ行こう!



世界がせまくなったという人がある。

たしかに私たちは、テレビやインターネットでいつでも世界中のニュースを知ることができる。

FacebookやTwitterで、さまざまな国の人と簡単につながることもできる。

でもそうして手に入れられるものは、世界という多面体のたった一つの側面でしかない。

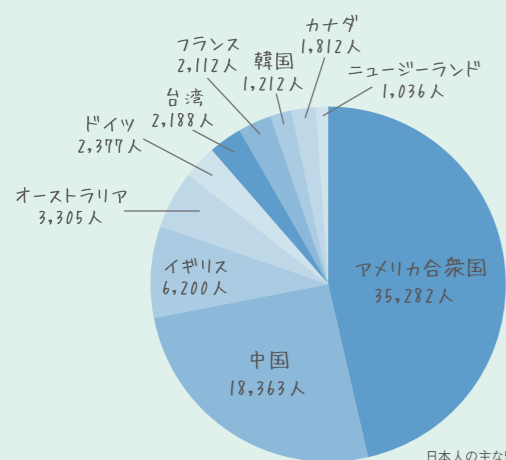
現実の世界は、もっと深く、広い。

しかし私たちの血の通った手を使えば、この複雑な世界をひとつずつ理解することができる。

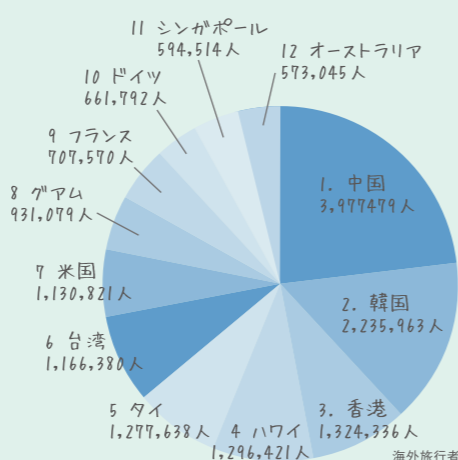
世界を見るとは、そういうこと。そして君たちは気づくだろう。

世界を変えるのは、他の誰かじゃなくて今ここで生きている自分だということに。

さあ、海外へ行こう!



日本人の主な留学先・留学者数(2006年)
文部科学省「我が国の留学生制度の概要」より



海外旅行者の旅行先(受入国統計, 2007年)
日本旅行業協会「数字が語る旅行業2010」より

海外へ留学している日本人は、どれくらいいるの?

海外旅行は、どの国が人気?

本部派遣交換留学生(平成22年度)

アメリカ	ウェスタンミシガン大学
アメリカ	アラバマ大学バーミンガム
アメリカ	オレゴン大学
カナダ	トロント大学
スウェーデン	ストックホルム大学
フィンランド	ラッペンランタ大学
ドイツ	ヨハネス・グーテンベルク大学
ドイツ	ベルリン自由大学
中国	鄭州大学
中国	北京大学
中国	山東大学
韓国	慶熙大学校
韓国	延世大学校
韓国	高麗大学校

法学部派遣交換留学生(平成22年度)

韓国	新羅大学校
----	-------

法学部主催語学研修(平成22年度)

アメリカ	ソノマ州立大学
ドイツ	ベルリン自由大学
韓国	新羅大学校
フランス	アヴィニオン大学
中国	北京大学

本部主催短期海外研修(サマースクール)(平成22年度)

イギリス	ケンブリッジ大学	ペンブルック・カレッジ
アメリカ	エリザベスタウン・カレッジ	



海外へ行こう!

交換留学プログラム



海外へ行こう!

語学研修



01



大切なのはチャレンジする気持ち。
オレゴン大学(米国) 関大介 (政治経済学科・4年)

ずっとアメリカへの憧れがあり、オレゴン大学に留学しました。ここでは難易度に合わせてクラスが分けられていて、自分の力量に合わせて授業を選べます。Civil Rights(市民権)の授業では、日本とは全く異なるアメリカの権利概念を学ぶことができましたが、それを判例だけでなく、実生活でも感じられるのが留学のメリットだと思います。もし留学をするなら、早ければ早い方がいいと思います。知らないことに興味を持ち、そこからどんどん世界が広がりますから。大切なのはチャレンジする気持ちです!



留学の先に
また新しい世界が
見えてくる。

02



英語は伝えるための手段の一つ。
ストックホルム大学(スウェーデン) 毛利清美 (政治経済学科・4年)

ストックホルム大学では、国際関係学、比較政治学などを学びました。一番面白かったのは、スウェーデンの政治について学ぶクラスでした。スウェーデンは基本的に英語が通じるので、英語が話せれば生活に不自由はありません。授業も、スウェーデン語で開講されるもの、英語で開講されるものがあります。留学をして気づいたのは、英語は伝えるための手段の一つでしかないということ。英語を使ってどんなコミュニケーションをとっていくか、それが最も大切なことだと思います。



外国語は、これからの社会に必要なスキル。
松田和夫教授

海外へ行くことの大きな意味のひとつは、生活習慣や文化、政治などの様々な場面で、日本との違いを肌で感じられることでしょう。最近では日本でも、ユニクロのように社内公用語を英語化する企業が出てきており、外国語ができることは、社会人のスキルの一つになっていくと思います。大学時代の海外留学は、ローリスク・ハイリターンと言えます。今しかできない経験に、ぜひチャレンジしてください。

03



話す力は自然に身に付きました。
北京大学(中国) 柴崎和也 (法律学科・2年)

中国語を選んだのは、もともと中国が好きだったことありますが、やはりこれから中国語が重要になると思ったからです。研修期間は約1カ月。週末を除くほぼ毎日、北京大学の講師の方から中国語の講義を受けました。クラスの全ての会話は中国語だけで行われるので、自然と話す力は身に付きます。講義のない休日は、講師の方が天安門広場などを案内してくれました。1カ月の間に、北京周辺の名所はほぼ見ることができました。将来は、中国語を生かせる貿易の仕事に就きたいと考えています。



帰ってくるころには、
外国語でひとり言をつぶやいているかもしれない。

04



次はもっと積極的に自分から話しかけたい。
ベルリン自由大学(ドイツ) 中山明日葉 (法律学科・4年)

私が語学研修で訪れたベルリン自由大学は、ドイツを代表する4年制大学のひとつです。授業が充実しているのはもちろん、休日にクラスの生徒でポツダムにピクニックに行ったり、ドイツ文化をたっぷり体験することができました。ドイツで驚いたのは、多くのドイツ人が、母国語の他に英語やフランス語など数カ国語を話せることです。外国語との接し方が、日本とは大きく違うんですね。私もドイツ語の勉強を重ねて、次に訪れるときはもっと積極的に彼らに話しかけたいと思っています。



日本とは異なる文化を感じてほしい。
江島泰子教授

語学留学のよい点は、その言語だけが話される環境に自分を置くことで、耳から入ってくる様々な情報が自然と整理されていくことです。実際にその国の空気に触れ文化を体験することは、多くの示唆を与えてくれます。例えばフランスでは、様々な国から来た人々がフランス語を使って暮らしています。人と社会のあり方、そこから生まれるメンタリティが、日本社会とは全く異なるんですね。日本文化に興味を持つ外国人が増えていますので、事前に勉強しておく、コミュニケーションのいいきっかけになりますよ。

交換留学プログラムについてのお問い合わせは、教務課(中野・小俣)まで。

語学研修についてのお問い合わせは、教務課(中野・小俣)まで。



海外へ行こう!

ヨーロッパ研修旅行 ←



05

とにかく、行ってみるのが大切。



牛島遼
(法律学科・3年)

2010年春(平成21年度)のヨーロッパ研修旅行に参加しました。とにかく海外旅行に行ってみたくて。訪れた場所の中で最も感動したのは、ローマのコロッセオ(円形闘技場)です。教科書でしか見たことのない巨大な建造物が、目の前に広がった瞬間の感動は忘れられません。海外に興味がある方は、とにかく行ってみることをおすすめします。旅費はかかりますが、それだけの価値があるし、間違いなく想像した以上の経験を持って帰れます!



文化、歴史との出会いや
現地の大学訪問。
ここでしか体験できない
海外旅行。

06

現地の大学生のリアルな話を聞いた。



中島一成
(政治経済学科・3年)

僕の場合は、旅を通じていろいろな人に会いたいと思って参加しました。この研修旅行では、マインツ(ドイツ)やアヴィニョン(フランス)など現地の大学を訪問し、大学生や先生とフリークできるチャンスがあります。向こうの学生のリアルな話を聞いたのは、非常にいい経験になりました。また、この大学訪問や旅の様々な場面で、自分の語学力がどれくらいのものかを肌で感じる事ができたものよかったですね。つぎはもっと少人数での旅行にチャレンジしたいです。



外国の雰囲気に、
じかに触れてみてください。



山田光矢教授

海外へは、とにかく行ってみることでですね。外国の雰囲気に、じかに触れてみる事が大切なんです。研修旅行では、アヴィニョン大学などの現地の大学生と、直接話せる機会があります。ヨーロッパの同年代の人がどんなことを考えたり、どんな学生生活を送っているかを知ることができるのは、貴重な体験です。この研修旅行で海外に慣れたら、1人か2人、少人数で旅行してみることもおすすめです。また新しい発見があるはずですよ。

ヨーロッパ研修旅行についてのお問い合わせは、学生課(対木)まで。

スポーツと地域の幸せな関係

09年に見事J1昇格を果たしたモンテディオ山形。そこでGMを務める中井川さんと、チームの活躍ぶりを伝える山形放送のアナウンサー・山下さんは、ともに日大法学部のOB。サッカーというスポーツを通して、仕事上でも縁のあるお二人に、スポーツ・ビジネスの現場について語っていただいた。



「サッカーが好き」という気持ちが今の仕事を支えている。



山下: よろしくおねがいします。今年、サッカーのワールドカップ南アフリカ大会が開催されましたが、中井川さんはモンテディオ山形のゼネラルマネージャー(GM)という立場から、どのような思いで大会をご覧になっていましたか。
中井川: 私は日本代表に、わがチームの姿を重ねて観ていました。日本の対戦相手はみな実力上位の強豪チームと戦うモンテディオ山形の置かれている立場と同じです。そんな中であって、日本代表は試合に臨むにあたり、高地順化などしっかりとした準備をし、組織で守り、戦う姿勢を貫き、グループリーグ突破という結果を出しました。これは我々のやっていることと通じるものがあります。我々のやり方は間違っていないんだという確認ができた大会でした。
山下: そもそも中井川さんとサッカーとの出会いは?
中井川: もともとは友達に誘われて始めたサッカー

でしたが、やり始めたらのめり込みましたね。できれば将来もサッカーに関わっていきたいと思っていましたが、まさか本当にこうしてプロサッカーチームのGMになるとは想像もしていませんでした。
山下: 現在、GMとして大好きなサッカーに関わるお仕事をしているわけですが、趣味でプレーしているところはまたサッカー観も違ってきただけではないでしょうか?
中井川: 仕事ですし、ましてやこういう勝負の世界ですから、いろんな面からサッカーを見つめ、考えていかなければなりません。趣味でサッカーをプレーするのはまったく別物と言っていいかもしれませんが、それでもやっぱりサッカーが好きという原点は同じです。サッカーを愛してなければ務まりません。ある知人から「天職だね」と言われたことがあるのですが、そうかもしれません。
山下: 中井川さんにとって、サッカーの魅力とは何ですか?

中井川:やはり、型にはまらない、選手のイメージーションとインスピレーションがもととなり、それをお互いに感じあうことで、プレーや試合が動いていく。それが世界中の人々をひきつけるのではないのでしょうか。この仕事に関わるようになったのは、1992年開催の山形国体に向けて、山形県から私が所属していたNEC山形に強化種目を引き受けてくれないかと協力要請があったのがきっかけです。県から提示された候補は4種目あったのですが、その選定のプレゼン資料作成を任されたのが私でした。その際に、私は、「サッカーの世界的人気はワールドワイドな企業イメージにもつながる」との理由でサッカーを推しました。そんな経緯があって会社はサッカーの強化に取り組むことを決め、それが現在のモンテディオ山形の母体となったわけですから、何やら運命のようなものを感じますね。

山下:実は私もサッカー少年の一人として、小学生のころからサッカーをやってきました。ところが小学生も高学年のころになると自分の実力もある程度見えてきます。プロ選手になるのは無理だなと(笑)。そのときにテレビを見て、サッカーの一流選手に接し、話を聞いて、伝える、こんな仕事もあるんだなと思ったのが、アナウンサーを志望したきっかけでした。私もサッカーの魅力によって、今の仕事に導かれた者の一人です。



地方におけるプロ・スポーツとジャーナリズムの役割。



プロ・スポーツのマネジメントは、会社経営にも通じている。



山下:中井川さんはNEC山形サッカー部事務局長を務められた、チームの生みの親であり、東北No.1チームにまで押し上げた育ての親でもあります。その後、97年に会社に復帰し、07年に再びモンテディオ山形のGMとして現場に戻られました。今度はプロ・スポーツの世界ですが、そこでのマネジメントとはどういうものなのでしょうか？

中井川:これは会社経営と同じで、まずは着実に安定的なクラブ運営を遂行していくことが目標となります。そのためには第一に強いチームをつくることです。サッカー・ビジネスにおいて商品は試合です。強いチームを育て、試合の価値を高めることでファンとの強固な関係を構築していく。そうすればチームの価値が上がる、スポンサーが付く。スポンサーが増えれば、財政的安定が得られ、着実なクラブ運営が可能になる。チームを取り巻く方々は実に多様ですが、我々が強いチームに成長していくことで、サポーターをはじめとする地域住民の皆さん、スポンサー、行政、それらすべてのステークホルダーを幸せにする。それに向かってクラブをマネジメントしていくのがプロ・スポーツ・ビジネスです。

山下:そういった意味では、モンテディオ山形の存在は地域のアイデンティティの向上に大きく貢献しているといえますね。

中井川:そうですね。地域における存在感にしていえば、常にモンテディオ山形の情報を発信してくれるマスコミに支えられている部分も大きいです。

山下:山形というローカルな環境のせいでしょうか、私も入社以来ピッチ・レポーターなどの仕事をやらせてもらっていますが、他のマスコミ関係者からは「1年目からJ1のピッチ・レポーターなんてありえない」と、うらやましがられることもあります。せつかく選手や関係者と直に接することができるのだから、プレーの内容や結果だけでなく、その背景や選手の素顔まで伝えていきたいと思っています。

中井川:そうやって地元のマスコミが我々のチームのことを取り上げてくれるのは大変ありがたいことです。コンテンツの少ない地方においては、その取り上げ方も大きくなりますし、皆さんがモンテディオ山形を発信してくれるおかげで、地域の人たちが興味を持ってくださる。それが県民の元気や勇気につながり、地域の活性化にもつながります。





チームの存在が、地域の活性化・再生をもたらす。



日本大学法学部で得た、人とのつながりという得がたい財産。

中井川茂敏氏 (なかいがわ しげとし)

82年日本大学法学部管理行政学科卒。山形日本電気入社。NEC山形サッカー部事務局を担当、89年の東北社会人リーグ昇格、94年のJFL昇格に貢献。97年にNEC山形総務部に復帰したが、07年途中よりモンテディオ山形のGM職を務めている。

山下将史氏 (やました まさし)

08年日本大学法学部新聞学科卒。同年山形放送入社。アナウンサーとして報道の現場に携わっている。



中井川: 仙台戦や新潟戦、あるいは浦和戦などには、県外からもたくさんの方が観戦にこられます。ある調査によりますと、我々のチームがもたらす経済効果は約30億円、雇用創出効果は約200人ともいわれています。やはりJ2で戦っていたころとは規模がまったく違いますね。J1に昇格できて本当に良かったと感じています。

山下: また、地元の方々に取材していると、モンテディオ山形の存在が地域再生という意味でもさまざまな効果を生み出しているように感じのですが。

中井川: そうですね。高齢者のご夫婦が毎日練習や試合を見にこられたり、米沢在住だった方がご主人を亡くされてから天童に移り住んで応援していただいたり、それこそ我々のチームを「生きがい

だ」とおっしゃってくれる方がたくさんいます。また、現在5つの公民館にサポーターズ・クラブがあるのですが、そこでは20代の若者からお年寄りまでが会話し、今までになかった世代間の交流も生まれています。

山下: 現在、GMというお仕事をなさる上で、日本大学法学部で学んでよかったと思えることはありますか?

中井川: やはり多くの人と知り合えたことでしょうか。私は、日本大学法学部でもサッカーをやりました。そのときの仲間ですとか先輩・後輩。それから県人会活動もやっていたので、県人会連合会などで全国の方々とも知り合うことができました。

山下: ひょっとして、日法サッカー部ですか? 実は私も日法サッカー部出身なんです!

中井川: そうですか。こういう人とのめぐり合いって不思議ですね。人生の節目節目で有形・無形の力をいただいています。

山下: 私も山形放送に就職して、見ず知らずのこの土地で多くの日本大学出身者の方に出会い、助けられ、励まされることがあります。

中井川: 日本大学の人脈は大変ありがたいですね。NECにいたころには、終業時に会社の前で先輩が「飲みに来て行ってください」って待っていたこともありましたが(笑)。そういう人のつながりというものは、とても大切だと思います。



法学部のこれが、イチオシ!

中井川茂敏GMのイチオシ!

「日本大学法学部サッカー部」



レポーター: 吉田麻妃子さん (新聞学科3年)

中井川GMがさまざまな人との出会いを体験した法学部サッカー部。今年は日大カップ優勝、オール日大3位など、素晴らしい成績を取っています。中井川さんの存在を「先輩としてとても誇らしいです」と語る副部長の望月里仁さん。望月さんに法学部サッカー部のモットーを何うと「楽しく勝つ! こと」との答えが。なるほど、練習でもチーム全体がとても明るいのが印象的でした。サークル外でも自然と集まってしまうというチームワークのよさが好成績に繋がっているのでしょう。「中井川さんたちが築いてきた伝統を紡いでゆきたい」と語る望月さんたち法学部サッカー部の活躍に大いに期待したいと思います。

山下将史アナウンサーのイチオシ!

「法学部・法桜祭の学生フォーラム研究発表会」



レポーター: 三浦彩香さん (新聞学科3年)

学生フォーラムは各ゼミの3年生による研究発表です。仲間たちと真剣に議論し、研究をした集大成を発表します。山下さんは、3年時に世田谷区の住民を対象にアンケート調査を行い、それをもとに「メディアと王子ブームとナショナリズムの関係」について発表しました。真夏の暑さの中、一軒一軒民家を回るは大変過酷な作業だったそうです。また、研究の話し合いでは、激しい口論になることもあったとか。しかし、「学問で本気でぶつかり合ったことは貴重な体験だった」と当時を振り返る山下さん。「ひとつのことを仲間と共にやり遂げたこと」、それが大学時代の一番の思い出だと語ってくれました。